

算命学中庸

【初年】 57 回目

57 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】 (3)

・【初年】 57 回目 【天中殺論 (3)】 「宿命中殺」 01

前回 56 回目 【天中殺論 (2)】 03 頁につぎの呼称を記載しました。

「運命天中殺」を「後天天中殺 こうてんてんちゅうさつ」

「宿命天中殺」を「宿命中殺 しゆくめいちゅうさつ」

これからは「^{てんちゅうさつ}天中殺」を「^{ちゅうさつ}中殺」と表現する機会が多くなります。 天中殺 ⇒ 中殺

これらの短縮形を記憶にとどめてください。

☞ 天中殺は「運勢が寝ているとき」「運勢が休止しているとき」という話があり、「天中殺は受け身で過ごす」とよい」と前回の授業で書きました。

☞ 「こうてんてんちゅうさつ後天天中殺」と「しゅくめいちゅうさつ宿命中殺」は異なります。

「後天天中殺」は誰にでもまわって来る天中殺です。

「後天天中殺」は陰陽で20年間の大運天中殺があります。

たいうんてんちゅうさつ大運天中殺は「まわってくる人」と「まわってこない人」がいます。どの天中殺でも天中殺がまわってきた期間は受け身で過ごすことを求められます。

「後天天中殺」というのは、後天運でまわって来る天中殺ですから、限られた期間があります。

☞ 宿命中殺は、生まれたときから、自分の宿命のなかに存在している天中殺です。

前回の授業では「宿命中殺」をもつ人物を記載しました、市川海老蔵「生年中殺」です。こうこうけつ江宏傑「生月中殺」です。

〔江宏傑と福原愛の子供は2人とも宿命中殺をもっています〕

宿命中殺は生まれたときから、自分の宿命に存在する天中殺です。

しょうがい生涯（生まれてから死ぬまで）自分ととも共にあります。

その意味で「一生受け身を求められる宿命」です。

「宿命中殺」 ^{いっしょうがい} 一生涯続く



一生受け身を求められている

受身で過ごすことができれば、禍がでたとしても、最小限で済ませることができます。

☞ 宿命中殺もっている人は「すべての事柄に対して、受け身で対処しなければいけないのでしょうか？」

そういうことではありません。

何に対して受け身なのかは……宿命中殺の種類によって違ってきます。

参考・対処 [ある事柄・状況に応じて、適切な処置をとること]

❖ お金に対して、無欲でなければいけない人もいます。

❖ 人物でいえば、子供に対して無欲でなければならない。親に対して無欲、あるいは、配偶者に対して無欲でなければならない。とかもあります。

❖ 仕事に対して無欲でなければならない。ということもあります。

宿命殺の人は一生を^{とお}通して、不完全・不自然なわけです。

不完全・不自然という意味では、その事柄で不利な条件を^{せ お}背負うことにもなります。

不利な条件を負いながら、ふつうの人と一緒に水準で生きて行かなければなりません。

宿命殺をもつ人物は、どのようなことを求められるのでしょうか……？

〔たとえば〕宿命殺をもつという部分を〔肉体的に欠陥をもっている〕というふうに置き換えて考えるといかがでしょうか。たとえ肉体に欠陥があっても……その人が^{けんじょうしゃ}健全者と^{たいとう}対等で、あるいはそれ以上に活躍して生きて行くには、どのような状況・状態を求められるのかということです。

その人物がおかれている環境・生活などの事柄もあるわけですが、なによりも必要なのは、精神の^{きょうじん}強靱さを求められるといえるでしょう。

参考：対等〔優劣のないこと〕 参考：強靱〔しなやかでねばり強いさま〕

そうでないと、自分が背負っている重みに負けてしまいかもかもしれません。

そこには聴覚ちょうかくに障害があり耳が聞こえにくいとか、さまざまな姿があります。

肉体のどこかに弱点をもちながら、ふつうの人たちと一緒にマラソンレースに出場するとか、なにかの競技に参加するときには、強固な精神力、忍耐力が不可欠な条件です。

参考：忍耐力〔つらい事などを耐え忍ぶちから〕 耐え忍ぶ

ここで言っているのは〔宿命中殺をもつ人〕と〔競技者の人たち〕が、おなじということではありません。

宿命中殺をもっている人は、人生を歩む過程において、〔相当に精神力が鍛えられる〕と考えています。

しかし、その人の生き方いきかたによりますから、必ずとは言いきれません。

なぜなら、宿命どおりに生きていない人の場合には精神力は鍛えられないのです。

参考：生き方〔その人の人生観に基づく、生活の仕方・態度。〕

⇒ [たとえば] 身体的障害 (disability) を背負って宿命どおりに生きようとするのであれば、精神力の強さは不可欠であるため、強靱^{きょうじん}な精神をそなえる必要があるはずです。

不利な条件をもちながら、宿命どおりに生きている人たちは精神力・忍耐力^{せいしんりょく}の強い人です。

⇒ 肉体的な障害とは異なりますが、「宿命殺^{しゅくめいちゆうさつ}」をもつ人物は、宿命のどこかに不完全な部分を抱えていますから、不完全な状況に追い込まれとチカラを発揮します。それは宿命殺のよさといえます。

宿命殺をもつ人は、不完全な環境で力を発揮する。

参考:精神力 [精神をささえている力。精神の強さ]

そうしますと、不完全・不自然な環境というのはどのような状況・状態なのかです。

[たとえば] 子供にとっての親^{おや}というのは、両親がそろっているのが完全な状態です。

両親がいない、片親がいない状況は不完全です。

「宿命殺」をもつ人は、そのような状況に置かれるとチカラを発揮します。

実際に宿命中殺をもって世の中で活躍している人物はとて多いです。

宿命中殺の人は、震災などでまわりの環境が異常な状況になると非常に頑張^{がんば}ります。

普通ではない環境になると、生き生きと活動をはじめるとか、チカラを発揮するのが宿命中殺の人です。

☞ 震災のような異常な状況なとき、それをきっかけに頑張る子供もいます。

参考：きっかけ〔物事を始めるはずみとなる機会・状況〕

☞ なにかの震災が起きたとき、落ち込んでしまって駄目になる子供もいます。

〔たとえば〕いままで成績もよくて、性格もよくて、将来を期待されていた子供がいたとします。

しかし、片親が震災で死亡したことによって、意気消沈して元気を失って、落ち込んでしまった。

そういう子供もいるわけです。

❖ 「宿命殺」と〔純濁法じゅんだくほうの濁だく〕は混同しやすいのです。

ここの解釈を知ってください。

❖ 宿命殺は「不完全・不自然な状態のときに強い」

❖ 純濁法の濁の宿命は〔動乱に強い〕

宿命殺に人にとっては、自分を取り巻く環境が動乱とか、平和とかは直接に関係しません。

「宿命殺」をもつ人は（不自然）（不完全）（不安定）とかの状況に強いです。

では——（自然）（完全）（安定）している状態とはどういうことなのでしょう。

〔たとえば〕仕事でいえば、今日1日働いて、明日も働けるのであれば、安定して働ける場所があるということなのです。

その代表は公務員といえるでしょう。

公務員という仕事のなかで、忙しい部署という話もありますけど、それと混同しないでください。

公務員として安定しているけど、上司に恵まれなくてパワハラに遭^あっているとすれば……なにかどこかが欠けている（不自然）（不完全）（不安定）な状況という意味で動乱です。

「休日なのに忙しくて、休む暇もない動乱です」といっても、必ずしもなにかが欠けて、不完全ということではないはずです。それとは別です。

『なにかが欠けている状況・状態』それは不完全といえます。その意味での動乱と解釈してください。

〔たとえば〕母親が『母としての役目を果たさない』といってもさまざまです。

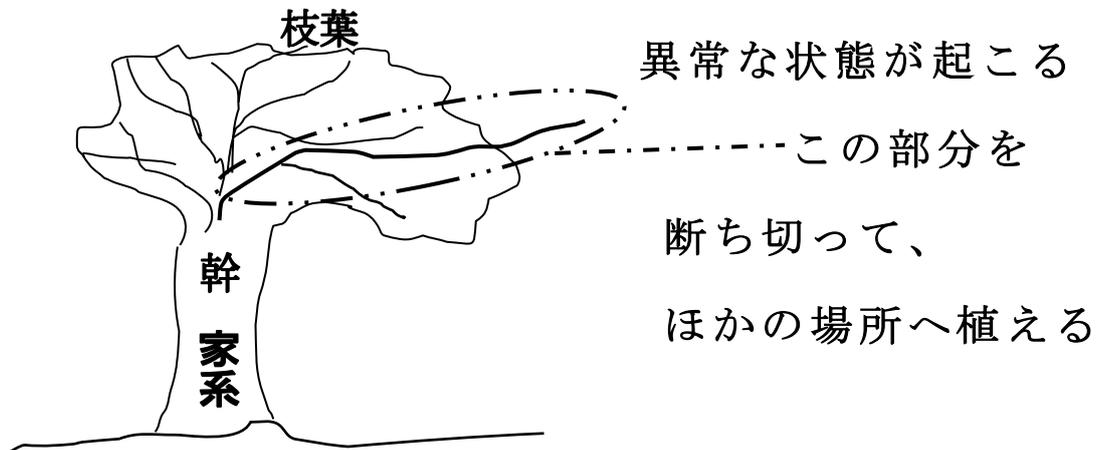
母親がパチンコに通いつめて、子供の面倒を看^みないとなれば、自然ではない状況です。不完全です。

あるいは、母親が病気で、母としての役目を果たしてもらえない。となれば子供にとって動乱です。

（そこのところの判断は難しいですが）親子のあいだに当然あるべき母と子のきずなが薄^{うす}いという状態がつくられているとすれば、子供にとっては動乱です。

〔たとえば〕 1本の樹木があるとします。

宿命(1) 樹木



樹木の太い幹を「家系」として考えますと、幹から張り出している枝葉、この枝葉は家系のなかの一人ひとりの人間と仮定して考えることができます。

「家系ってなんなの？」ということにもなります。難しい部分です。あとで説明しますのでお待ちください。

家系という一族の流れのなかに、中殺をもっている人物が存在すると、樹木(家系)は順調に^の延びていくことはできないという事象^{じしょう}が起こります。

参考：事象〔いろいろな物事や現象〕

参考：順調〔とどこおりなく物事が進行すること〕

参考：異常〔ふつうとはちがったさま。普通の状態とは異なるさま〕

たとえば] どのようなことが起きるかといえば、
枝^{えだ}が変形して延^のびてしまう。太い幹^{みき}が真っ二つに裂^さ
けてしまう。樹木そのものが根^ね刮^{こそ}ぎ倒れてしまう。
そのことに起因して家系が没落する。ということも
あります。そうすると困ります。

枝葉のなかで延^のび過ぎて困る
変形して、うまく成長しない } 異常な事象が起こる

そこで異常に延^のびた枝を断ち切って、ほかの場所へ移植す
るということです。家系という幹^{えだ}から、枝が切り離されて
しまうことは動乱といえますが、移植された場所で安定し
て育つこともあるわけです。上記の説明は〔例え話〕ですが
実際には、台木^{だいぎ}にほかの優^{ゆう}良^{りょう}種^{しゆ}の枝をつぐ「枝接ぎ^{えだつ}」をします。

中殺^{ちゆうさつ}は〔不自然^{ふじぜん}で融合^{ゆうごう}しない姿〕です。

宿命に中殺をもつて生まれた人物は、自分が生まれ
た家系^{いすわ}に居座ると、その人自身に、あるいは源流^{げんりゅう}の
家系に不自然な状況がつけられます。

参考：不自然〔自然に反したさま〕 融合〔異なるものが一体になること〕

参考：事象〔観察できる形をとって現れる人為的な事柄や現象〕

その姿にはさまざまな状況・状態があります。

いずれにしても異常な事象じしやうが起きてしまいます。

どのようなことが起るかということになりますが、家系のなかにはさまざまな枝葉(人物)が存在します。

家系という幹みきからはみ出した枝葉(人物)というのは多くの枝葉のなかにおいて、ふつうに反する質しつ やどを宿した枝葉です。

その異常な質を内部に含みもつ一本の枝葉だけが、立派に伸びて成長してしまうと、幹そのものが傾いたり、倒れたりして、ほかの枝葉にも悪影響を与えてしまうことも起ります。家系そのものが滅亡めつぼうするという非常にきびしい状況も起こります。

家系になかで中殺をもつ人物が、家系の流れにそぐわない姿のに延びてしまったときには、何人も死ぬという事象が起きることが実際にあります。

普通であれば——何人もの人間が死ぬという大きな禍わざわいが起ることはないと考えていますが、環境・事象の大きな変化によっては起ります。

その影響は家柄が大きければ大きいほど、その禍わざわいも大きく出ます。

＊ 日本の国で最も大きな家柄は天皇家です。

じょうこうあきひと

上皇明任様は宿命中殺をもっています。

上皇様の宿命中殺は「生月中殺 せいげつちゅうさつ」です。

⇒ 「宿命中殺」は生まれながら宿命のなかに存在する天中殺と書きました。 参照⇒56回目【天中殺論(2)】

☞ 「宿命中殺」はいくつもあります。

せいねんちゅうさつ
「生年中殺」

せいげつちゅうさつ
「生月中殺」

せいじつちゅうさつ
「生日中殺」

しゆくめいにちゅうさつ
「宿命二中殺」

しゆくめいさんちゅうさつ
「宿命三中殺」

しゆくめいぜんちゅうさつ
「宿命全中殺」

ごかんちゅうさつ
「互換中殺」

どういつちゅうさつ
「同一中殺」

そうごちゅうさつ
「相互中殺」

にちざちゅうさつ
「日座中殺」

これらの宿命中殺については、順次ご説明します。

✽ ^{じょうこうあきひと}上皇明任様 (令和天皇の父・平成天皇) 1933(s8)-12-23

6歳運 逆まわり

	癸	甲	癸		貫索	天胡	1旬	6	癸亥
子	亥	子	酉	石門	貫索	龍高	2旬	16	壬戌
丑	甲			天将	調舒	天禄	3旬	26	辛酉
	壬	癸	辛				4旬	36	庚申
		生月中殺					5旬	46	己未
							6旬	56	戊午
							7旬	66	丁巳
							8旬	76	丙辰
							9旬	86	乙卯

必ず「天中殺範囲」を書いてください。

平成天皇は「^{ね うしてんちゅうさつ}子丑天中殺」です。

^{げっし ね}月支（子）が中殺されていますから『^{せいげつちゅうさつ}生月中殺』です。

^{げっかん こうぼく}月干「甲木」そして月支（子）の二十八元に入っている

〔^{き すい}癸水〕も天中殺範囲になります。

^{げっし こすい}月支（子水）の上も下もすべて中殺されます。

^{じょうこう}上皇様のご兄弟は、ご自分も含めて7人います。

かなりの人物が死んでいます。

ご自分の上に姉が4人いました。

ご自分と^{ひたちのみや}常陸宮様と^{しまづたかこ}島津貴子様がありますが、その上の3人は早くに亡くなっています。

上皇様のご兄弟はほとんど子供が生まれていません。このような事象が起るわけですから、すごい犠牲のうえに天皇家が成り立っているということです。

天皇家の場合、上皇ご自身が中殺をもった^{えだは}枝葉です。その枝葉の部分であるご自分が天皇家の跡継ぎとして『^{かけい}家系を^{けいしょう}継承』しています。

本来であれば、家系を出て、どこかへ行けばよいのですが、天皇家では民間人のようにはいきません。それゆえ、多大な犠牲がでてしまいます。

🔍 56回目【天中殺論(2)】の授業では、「天中殺範囲」の説明で ⇒ [たとえば] 午未天中殺①は生年中殺。

辰巳天中殺②は生月中殺。 辰巳天中殺③は宿命二中殺。

戌亥天中殺④では、天干と地支の二十八元も含めて天中殺範囲になります。

このような内容で^{がいりやく}概略をご説明しました。

参考：概略 [物事のだいたいのところ。あらまし]

⇒ 個人の天中殺範囲を知るには、「日干支」が基準です。

このことは55回目【天中殺論(1)】で記述しました。

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

〔たとえば〕^{じょうこうあきひと}上皇明仁様の日干支「^{きすいのいすい}癸亥」は^{ねうしてんちゆうさつ}子丑天中殺です。

「甲寅 51」～「癸亥 60」までの干支は子丑天中殺範囲になります。

🔍 子丑天中殺の範囲を正しく知るには「干支歴」を用います。

干支歴を見るとわかりますが、天中殺範囲は、基本的にその年^{とし}の12月4日の節入日～翌々年の2月3日までの2年間になります。

〔たとえば〕2008年2月4日「戊子」～2010年2月3日「己丑」まで、2年間が『子丑天中殺』の範囲になります。

2010年2月4日から、年の干支は「^{こうきんのとらぼく}庚寅」に替わりますから宿命が『^{とらうてんちゆうさつ}寅卯天中殺』の人^{とし}は天中殺の年に入ります。

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

2・3 この数字は、1年間 12ヶ月のなかの2月と3月です。

2ヶ月間が寅卯天中殺の月になります。

2ヶ月間というのは ⇒ その年の2月の節入日当日から、4月の節入日の前日までの2ヶ月間です。

〔たとえば〕2010年2月4日「庚寅」～2012年2月3日「辛卯」までの2年間で『寅卯天中殺』になります。

2012年2月4日からの干支は「^{じんすいのたつど}壬辰」に替わりますから……

『辰巳天中殺』の人は、天中殺の^{とし}年に入るわけです。

🔍 各月の節入日は、必ず **干支暦** で確認してください。

⇒ ここに **干支歴** の一部を掲載しました。

平成18年(2006)丙戌 ~ 平成21年(2009)己丑 までの

4年間を掲載した「干支歴」です。

平成19年(2007)丁亥			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	壬寅	丙寅
3	6	癸卯	甲午
4	5	甲辰	乙丑
5	6	乙巳	乙未
6	6	丙午	丙寅
7	7	丁未	丙申
8	8	戊申	丁卯
9	8	己酉	戊戌
10	9	庚戌	戊辰
11	8	辛亥	己亥
12	7	壬子	己巳
1(平20)	6	癸丑	庚子

平成18年(2006)丙戌			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	庚寅	辛酉
3	6	辛卯	己丑
4	5	壬辰	庚申
5	6	癸巳	庚寅
6	6	甲午	辛酉
7	7	乙未	辛卯
8	8	丙申	壬戌
9	8	丁酉	癸巳
10	8	戊戌	癸亥
11	7	己亥	甲午
12	7	庚子	甲子
1(平19)	6	辛丑	乙未

平成21年(2009)己丑			
月	節入日	節月干支	1日干支
2	4	丙寅	丁丑
3	5	丁卯	乙巳
4	5	戊辰	丙子
5	5	己巳	丙午
6	5	庚午	丁丑
7	7	辛未	丁未
8	7	壬申	戊寅
9	7	癸酉	己酉
10	8	甲戌	己卯
11	7	乙亥	庚戌
12	7	丙子	庚辰
1(平22)	5	丁丑	辛亥

平成20年(2008)戊子			
月	節入日	節月干支	1日干支
2 閏	4	甲寅	辛未
3	5	乙卯	庚子
4	4	丙辰	辛未
5	5	丁巳	辛丑
6	5	戊午	壬申
7	7	己未	壬寅
8	7	庚申	癸酉
9	7	辛酉	甲辰
10	8	壬戌	甲戌
11	7	癸亥	乙巳
12	7	甲子	乙亥
1(平21)	5	乙丑	丙午

🔍 天中殺の範囲を正しく知るには **干支歴** を用います。
18 頁に掲載した **干支歴** を参考にして、「天中殺範囲」の
説明をします。

👉 戊亥天中殺の人であれば、

平成 18 年 (2006) 2 月 4 日 ~ **平成 20 年 (2008) 2 月 3 日** の
節入日の前日までが『戊亥天中殺』になります。

平成 20 年 (2008) 2 月 4 日 からは「戊子」の干支に替わり、
2 月 4 からは「平成 20 年」の新年が始まります。

干支歴では、新年の始まり（節入り日）は、その年^{とし}によって異な
りますけど、干支歴を見ておわかりのように、(2006)(2007)(2008)

(2009) の各年^{かくねん}はいずれも、節入り日は **2 月 4 日** です。

この節入り日から「その年の新年が始まる」わけです。

👉 子丑天中殺の人であれば、

平成 20 年 (2008) 2 月 4 日 ~ **平成 22 年 (2010) 2 月 3 日** の
節入日の前日までが『子丑天中殺』の範囲になります。

平成 22 年 (2010) の干支歴は表示されていませんけど……、

平成 22 年 (2010) の節入り日は **2 月 4 日** になっています。

天中殺範囲を正しく知るには **干支歴** をつかいます。

⇒ 「生年中殺」と「生月中殺」は異なります。

「生年中殺」も「生月中殺」も宿命中殺なのですが、その内容は異なります。その違いをご説明します。

生年中殺と生月中殺は、条件付きで跡を継げる場合があります。条件付きということは変わりません。



そして、宿命中殺の部分だけが動乱で、宿命全体は平和ということもあります。

⇒ 女性の場合は宿命中殺をもっている、^{むこ}婿を取るということは一般的に少ないわけです。

だいたい結婚して家系（実家）の外へ出ますから、その意味で女性は助かります。

家系の外へ出るというのは、実家（生まれた家系）から離れ、

^{たけ}他家（ほかの家系）へ^{とつ}嫁いで、^{こんかさき}婚家先に人間になります。

⇒ 「生年中殺」 (せいねんちゅうさつ)

〔たとえば〕 つぎのような宿命^{しゅくめい}中殺をもつ人がいるとします。この人の宿命^{しゅくめい}中殺は「生年中殺」です。

			年 干 支	宿命 (1) 生年中殺・男性	
	男 性				
	乙	丙	丁父		日干「乙木」の人が、年干支の場所を
辰	未	午	巳母		中殺しています。
巳			生 年 中 殺		年干支は親の場所です。
					この男性は親を中殺しています。

日干の「乙木」はこの宿命の人物です。

年干は父の場所、年支は母の場所という決まりがあります。

細かくいえば——日干の「乙木」は男性自身^{おつぼく}です。

日支の（未土）は配偶者・妻の場所です。この男性が結婚すると、妻が日支の場所に座ることになります。

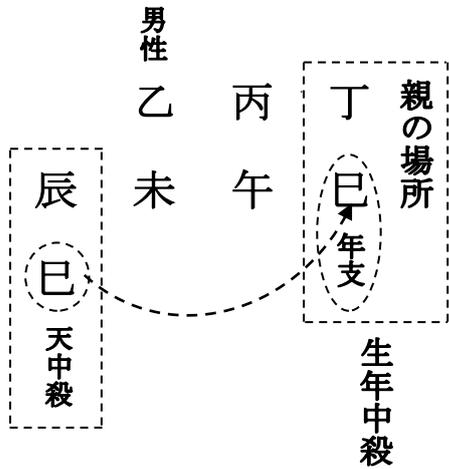
日支は妻が座る場所という意味で〔妻座^{さいざ}〕とといいます。

日干の「乙木」が女性の場合、日支は夫が座るという意味で〔夫座^{ふうざ}〕とといいます。

※男性も女性も独身^{くうせき}のとき（日支）は空席です。結婚して夫か妻になった人だけしか座ることができない場所が（日支）です。

🕒 話しを「生年中殺」へもどします。

宿命(2) 生年中殺・男性



日干「乙木」の人物が、年干支の場所を中殺しています。

年干支は親の場所です。

男性は親の場所を中殺しています。

厳密に言えば……年干は父の場所です。年支は母の場所です。

日干は自分の場所。日支は配偶者の場所。このように決まりがあります。

天中殺表^{にっかんし}で日干支「乙^{おつぼくのひつじど} 未³²」の天中殺範囲をみると辰巳天中殺です。

辰巳天中殺の^{ねんし}巳が年支の^{中殺されている}巳を中殺しています。この姿は生年中殺です。

「生年中殺」は年干支の^{ねんかんし}(巳)^みが天中殺の範囲ですから、^{ちし}地支の(巳)と同時に天干の「丁火」も中殺されます。年干支は人物で誰の場所かといえば親の場所です。

^{ねんかん}年干は父の場所、^{ねんし}年支は母の場所ですから、「年干支」は^{ねんかんし}両親の場所になります。

⇒ 「生年中殺」は親を中殺していますから、親が不自然な状態になります。

「親が不自然な状態になる」という意味を簡単にいえば、日干「乙木」の人物が〔親に縁えんがない〕あるいは〔親と縁うすが薄い〕といえます。

乙木が親を不自然な状態へ追いこむわけですから親と縁がない。

ふつうに考えれば、親と子は縁えんがあるのが自然ですが、生年中殺をもつ子供は親に縁えんが無いです。

宿命(1)(2)生年中殺・男性は「生年中殺」という宿命しゅくめい中殺ちゆうさつをもって生まれてきました。

当然ですが「乙木」の男性おつぼくには両親がいます。

「乙木」を生んでくれた両親の場所は年干支です。

年干支の場所に親として「丁巳」がいます。

その親を日干「乙木」の男性が不自然な状態に追い込んでいます。つまり、子供(乙木)のほうから親との縁を薄くしているのです。

親は子供から中殺されて、不自然な状態になります。

それゆえ、この子供は親と縁の無い子供ということになります。

⇒ 言葉を付け加えます。

『親』と表現していますが……母親が子供を産みます。

そこには父と母の存在がなければ子供は生まれてきません。

それゆえ『親』というのは「両親」のことです。

親が「^{せいねんちゆうさつ}生年中殺」をもっている子供を生みましたが、親のほう「生年中殺をもって生まれてきた子供」との縁が薄いではありません。

「生年中殺をもって生まれて来た子供」のほう、親との縁が^{えん}薄いのです。

「生年中殺」をもつ子供が、親を不自然融合にしていますから、子供のほうから親との縁を薄くしているのです。

子供が親を不自然な状態にしているわけですから、子供は親を頼ることはできません。

⇒ 理解しやすいように名前をつけました。

生年中殺をもつ子供の親を〔親A〕とします。

生年中殺をもつ子供を〔子供B〕とします。

繰り返します ⇒ 生年中殺をもつ〔子供B〕のほうが

〔親A〕との縁^{えん}を薄くしているのです。

なぜか……〔子供B〕が〔親A〕を中殺しています。

言い換えれば ⇒ 生年中殺をもつ〔子供B〕が〔親A〕

を中殺状態に追い込むのが、生年中殺をもつ子供の宿命どおりなのです。

〔親A〕と〔子供B〕は、このような親子関係ですから、自分が中殺に追い込んでいる両親を頼ることはできません。

〔子供B〕のほうが、〔親A〕と縁が薄くなる中殺状態をつくっていますから、親を頼れません。

しかし、〔親A〕は〔子供B〕を頼ることができます。なぜなら、親は子供を中殺していません。

〔親A〕が〔子供B〕を不自然な状態へ追い込んではいないからです。

〔親A〕が年^{とし}を重ねて、誰からも面倒^みを看てもらおうことができない状況であれば、生年中殺をもっている〔子供B〕を頼ることはできます。

ところが……親の側としては、子供を頼る気持ちにはなれないとも言えるのです。それはどうしてなのでしょう。

たと^{たと}えれば、

『子供の頃の〔子供B〕は、自分たち親〔親A〕に対して、親ではないと思っていたような^{きょどう}挙動の子供だった』
〔親A〕からみると、そのように想える子供だったのです。

両親は〔子供B〕を育てながら……、

「この子は親を自分の親と思っているのかしら？」
親がそのように感じていたともいえるでしょう。

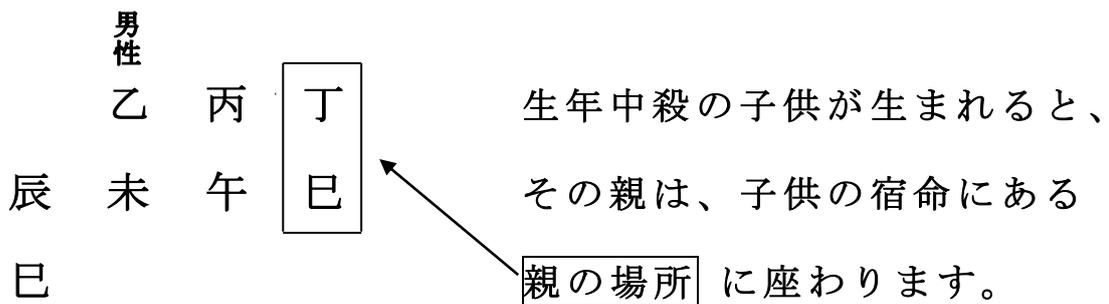
育ててきた親の側とすれば、生年中殺をもつ自分の子供に対して「自分の子供ではないのでは……」というふうな感覚に^{おちい}陥ることもあるわけです。
それは子供が親を中殺しているので、お互いが融合できないことによって起こるともいえます。

☞ つぎの事柄は間違えないでください。

それは「親の面倒をいつから^み見てよいのか？」という場合の判断につながるでしょう。

☞ 生年中殺をもつ子供が生まれると、両親は自動的に子供の宿命の「年干支（親の場所）」に座ります。

宿命（3）生年中殺・男性



夫婦に「生年中殺」の子供が生まれました。

父は年干（父の場所）、母は年支（母の場所）に自動的に“座らせられてしまう”といえます。

生年中殺の子供は「年干支」を中殺しています。

子供から中殺を受けている場所に、両親は嫌^{いや}でも、自動的に座ってしまうわけです。

それゆえ、親は中殺を受けてしまうのです。

☞ その結果「親と子供の関係はどうなるの……」ということなのです。

生年中殺の子供をもつ親は、子供から中殺を受けている親です。自分の子供から不自然な状態にさせられてしまう親になります。

子供は〔中殺している親〕を頼りません。

自分が中殺に追い込んでいる親を頼りませんから、子供は親と縁が無い(縁がうすい)状態になります。そうしますと、子供が親を頼れない状況のなかで、最も親を頼れない姿とはどのような状態なのかといえ、中殺を受けた親が死ぬことです。

“親が死ぬ”というのは、片親の場合もあります。両親ともに死ぬということも含まれます。あるいは、両親が離婚した場合には、子供の宿命の年干支に両親がそろっていない状態になります。両親が離婚しないのが自然です。両親が離婚すれば、年干支は不完全・不自然の状態になるわけです。

「生年中殺」をもつ人の場合、そのようなことも起こります。表現は厳しいですが勉強です。ご理解ください。

〔たとえば〕親が離婚したとしても、父と母の両方に縁がうすくなるということは少ないです。

どちらかが親権を得ますから、父か母のどちらかと縁がうすくなります。

母親が親権を取る場合が多いようですから、そうになると父親のほうと縁がうすくなります。

あるいは、両親と子供のあいだで、お互いの意志の疎通ができない不仲な状態もあります。

これも不自然です。

参考：疎通〔意志・気持ちなどが、相手によく理解され、通じること。〕

または、両親（夫婦）そのものが不仲の状態もあります。つまり子供から親が中殺されて、両親のあいだが無自然な状態になりますから、生年中殺の子供が両親の仲を裂くということも起ります。

そして、単身赴任の状態も入ります。

単身赴任は両親が別居しているのとおなじ位置づけなのです。これは両親の仲がよくても、悪くてもおなじです。母親のほうは実家に居て、父親はあっちこっちに転勤するという状況も入ります。

あるいは、親が働けない状態、病弱、性格破綻者^{せいかくはたんしゃ}として、働けない場合も含まれます。

参考：状態 [移り変わってゆく、人や物事のある時期におけるありさま]

参考：状況 [ある人の置かれている、さまざまな環境のありさま]

⇒ 「生年中殺」をもつ人は、親の面倒を^み看ないほうがよいのかどうか、それは状況によります。

親の面倒を看ないほうが「生年中殺」をもつ人物の運勢がよくなるのかどうか、それは個々の宿命によります。

しかし、親のほうが、生年中殺の子供からが面倒を看てもらおう場合、通常は親の運勢が悪くなります。

なぜかといいますと、「生年中殺」をもつ子供が自分の宿命どおりに人生を歩むには、親を不自然な状態に追い込めば宿命どおりですから、普通は親のほうに困難な問題が起ります。

普通は親のほうがよくない状況になるのですけど
〔たとえば〕生年中殺の人が、親と一緒に同居しているとします。

『生年中殺をもつ子供の両親は健在で、夫婦仲も良

いとなると、生年中殺をもつ子供にとっては、宿命どおりではないわけです。

つまり、親を中殺に追い込んでいません。

生年中殺の子供は〔親を不自然な状態に追い込む〕ことが宿命どおりです。

それが出来ない場合、生年中殺をもつ子供は自分の宿命に反^{はん}することになりますから、子供自身の宿命が壊^{こわ}れます。

宿命が壊れる・崩^{くず}れることで、子供は“落ち込む”ことになります。

落ち込みが限度をこえて、精神的にゆとりがなくなれば〔死ぬ〕ということも起こります。

親を不自然な状態に追い込むのが……子供の宿命どおりですから、親を追いつめることができなければ、自分の宿命が壊れますから、自分が死ぬことにもなります。

参考：反する〔決められた規則にそむく〕

参考：落ち込む〔気分が沈み、動きのとれない状態になる〕

☞ それではどうしたらよいのかです。

親もほどよく元気で活躍できて、生年中殺の子供も宿命に反^{はん}しない状態は、どのような姿なのかです。子供は親との縁が無いですから、親元（実家）を早く離れることが最良の方法です。

親との縁がないわけですから〔親元を早く離れること〕が最良の決断です。自分が中殺している親を頼りません。

しかし、親にしてみれば、我が子ですから、赤ん坊のときに手放すことは、なかなかできないわけです。

（赤ん坊のときに手放す、それはそれでよい方法ですが、実際には非常に難しいことです。）

それゆえ、おおよそ「社会に出るときまでには、手離^{てばな}れしなさい」と考えています。

おおよそ⇒社会に出るときまでに子供を手放すことです。

〔たとえば〕高校を卒業して、社会へでるのであれば、そこで子供を手放^{てばな}すことです。

大学を卒業して、社会へでるのなら、そこまでです。それが目安です。

参考：手離れ〔手許にいたものを、その監督・保護から放す〕

〔たとえば〕留学という選択肢もあります。

生年中殺をもつ人は、自分の親を中殺に追い詰めています。

親を頼ってはいけないことが基本です。

しかし、ふつうに考えて——留学となれば、留学の費用は親から出ていますから、親から面倒を見てもらっていることになります。

生年中殺は親を頼れないことが前提にありますけど〔親から離れて留学する〕という意味では、親が受ける中殺の影響は相当にちがってきます。

どれほど違うのか……その数字はできません。

参考：相当〔かなりの程度であるさま〕

通常「生年中殺をもつ子供は、自立して親から離れる」というのがあるべき姿です。

しかし、普通に考えると、子供が親元から通学するのが自然な姿です。

子供が親元から離れて暮らすのは、不自然な姿と考えることもできますから、子供が親と離れて寄宿舎生活する場合には、不自然な状態としての条件を満たすことにもなるわけです。

☞ 「生年中殺は親を頼れない」という言い方をしますが、生年中殺をもつ人は、親を頼らなくても生きてゆくことができます。

生年中殺をもつ本人が、親との縁を薄くしているわけですから、親を頼る必要はないのです。

〔たとえば〕生年中殺をもつ子供が生まれました。

両親は子供を祖父母に預けて育ててもらいました。

我が子を両親が育てないということは、子供の側にすれば、実の両親を頼れない状況にいるわけです。

祖父母に育てられた子供は、〔親を頼れなかった〕という状態がつくられたわけです。

あるいは「親と一緒に暮らしていても、実質的には祖父母に子供の面倒を見てもらっていた」ということであれば、かなり助かります。つまり親以外なら構わないのです。

「年干支」は親の場所ですから、親は先祖への入り口でもあるのです。親は先祖の代表です。

🔍 参照⇒ 最大時空間・中時空間、最小時空間 ⇒ 38回目【陰占宿命】

「年干支」の最大時空間範囲さいだいじくうかんはんいは両親が代表であり、その背後の先祖も含まれます。

生年中殺をもつ子供にとって、祖父母は直接の親で

はないので、ある程度は助かるといえます。

どの程度の数字なのか……それはわかりません。

①〔たとえば〕生年中殺をもつ子供が生まれました。その子供は『天印星』をもっています。

『天印星』は赤児の星・養子運の星ですから、他家の“養子”になれば、^{じっ}実の両親から離れることとなります。そうなれば「生年中殺」も消化でき、天印星も消化できますからよいですね。という話にもなるわけです。

しかし、複雑な問題ですから、そのようことになるようであれば、観てもらふ必要があるとおもいます。

その子供が実際に養子に行くのであれば、生年中殺をもつ子供の宿命だけではなくて、その子供の^{じっ}実の両親の宿命、そして養子先で子供の両親になる人物の宿命を観る必要があるといえます。

②〔たとえば〕生年中殺をもつ子供が生まれました。その子供は『天印星』と『天庫星』をもっています。ということは〔養子の星〕と〔跡取りの星〕をもっているわけです。このような場合で、実際に養子に行くので

あれば、生年中殺をもっている子供の宿命だけではなくて、その子供の実の両親の宿命、そして養子先で子供の両親になる人物の宿命を観る必要があるといえます。重要です。

さまざま説明しましたが、どこかに不都合、または、宿命にそぐわない部分が出てくることもあります。

〔なんの妨げもなく、星の意味を活かしやすい宿命〕

〔なにか妨げがあり、星の意味を活かしにくい宿命〕

それゆえ個々の運勢を論ずることができるわけです。

以前には『跡取りは親の後を継がなくていけない』
そのように言われた時代があったわけです。

昨今はあまり取り沙汰されなくなっているようにおもえます。

親子の問題は、親子関係だけに焦点を当てるだけでは、深く観ていくことができない複雑な部分が多々あります。

この授業をお読みになって『親子関係において』なにか思い当たる問題があるようでしたら、鑑定をされるのもひとつの方法といえるでしょう。

養子の話しはここまでにします。

⇒ 実際に「生年中殺」の子供がおられるのであれば、親御さんがその子供の世話を焼いたり、あれこれと手を掛けたり、子供に深く関わることをしないことです。

生年中殺をもつ子供自身に任せればよいのです。

親があれこれ口を挟まないことです。

親のおもいどおりに育てようとしないことです。

親が生年中殺をもつ子供の世界に入り込もうとすると、親に対して子供は拒絶反応を起こすことがあります。

根本的に—— 親御さんも子供に頼らない生き方をするほうが、その子供は伸びて行けると考えています。

参考：根本的〔物事がそれによって成り立つおおもとに及んでいるさま〕

🔍 参考【初年】 11回目 【宿命と自然】 28頁に 宿命(14) が記載されています。

👉 この文章のなかに「宿命」「運命」「運勢」と書かれています。

親縁がないので早く家を出たため
のびのび育った

宿命

親縁がないのは宿命

運命

早く家を出たのは運命

運勢

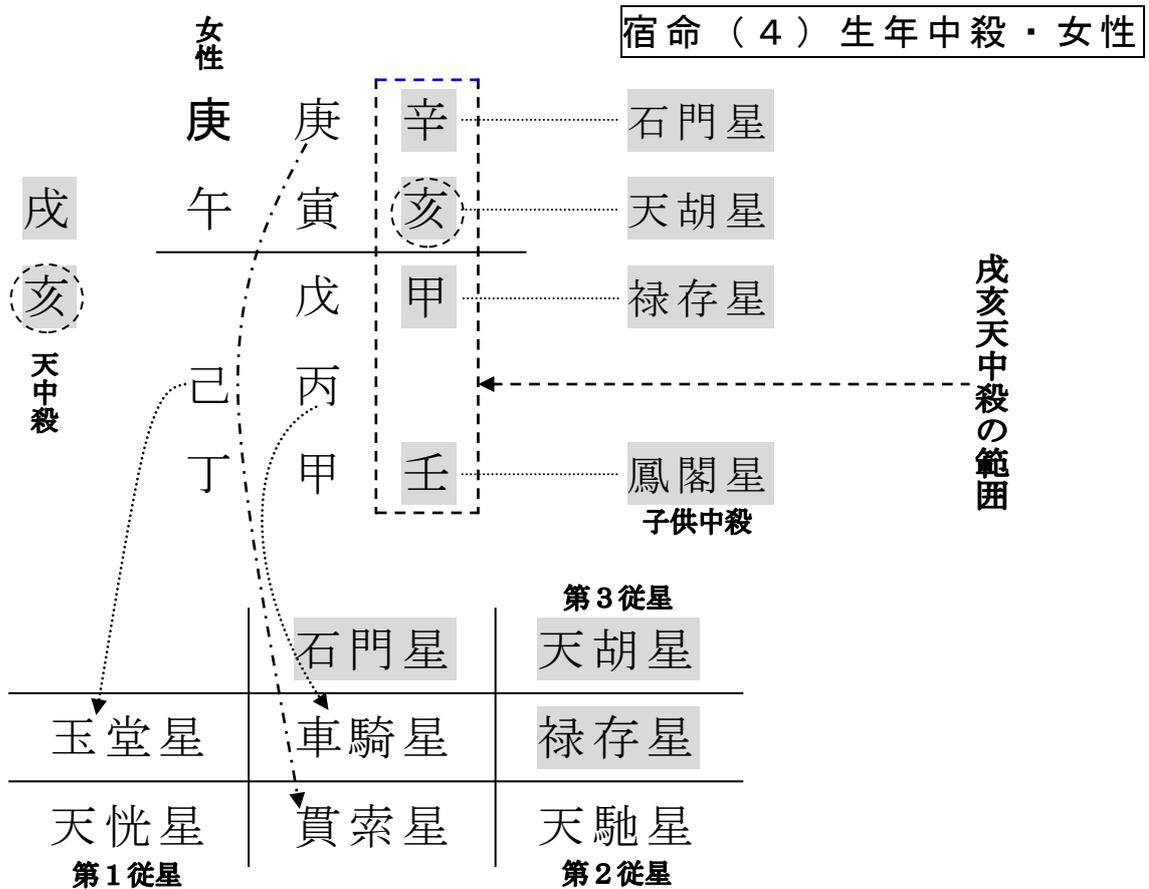
のびのび育ったのは運勢

宿命 + 運命 = 運勢

宿命(14)

このような考え方をしています。

☞ [たとえば] 生年中殺をもつ **女性の宿命** です。



1. 日干「庚」から年干の辛をみると **第四命星**〔石門星〕
2. 日干「庚」から月干の庚をみると **第二命星**〔貫索星〕
3. 日干「庚」から年支亥のなかの甲をみると **第三命星**〔禄存星〕
4. 日干「庚」から年支亥のなかの壬をみると **〔鳳閣星〕**人体図にでない
5. 日干「庚」から月支寅のなかの丙をみると **主星**〔車騎星〕
6. 日干「庚」から日支午のなかの己をみると **第一命星**〔玉堂星〕
7. 日干「庚」から年支(亥)をみると **第3従星**(天胡星)
8. 日干「庚」から月支(寅)をみると **第2従星**(天馳星)
9. 日干「庚」から日支(午)をみると **第1従星**(天恍星)

女性の宿命は「生年中殺」です。 戌亥天中殺です。

年支（亥水）の二十八元にある〔甲・壬〕が中殺をうけます。

1. 日干「庚金」から年干「辛金」をみると第四命星〔石門星〕になります。石門星が中殺をうけます。

3. 日干「庚金」から年支（亥水）のなかの〔甲木〕をみると、第三命星〔禄存星〕になります。禄存星が中殺をうけます。

7. 日干「庚金」から年支（亥水）をみると第3従星〔天胡星〕になります。〔天胡星〕が中殺をうけます。

4. 日干「庚金」から年支（亥水）のなかの〔壬水〕をみると〔鳳閣星〕になります。〔鳳閣星〕が中殺をうけます。

鳳閣星は人体図に出ていませんが中殺をうけます。

鳳閣星には〔寿命・sex・子供・目下〕などの意味があります。

ここでは特に占う対象たいしょうを決めていませんから、ここでは（子供）を対象とに採ります。子供中殺の宿命になります。このように生年中殺範囲の「干」と（支）を星になおして、その星の意味合いに相当する人物はすべて中殺をうけることになります。

これは何を対象とに占うのかで、星の意味の採り方が変わります。

参考：対象〔目標となるもの。目あて。〕

⇒ すこし難しくなりましたが、星を人物になおしました。

この技法を「六親法^{ろくしんほう}」といいます。

【初年】のうへのクラス【研究専科】で学びます。

・年干の「辛金」は石門星になります。

兄弟がいれば兄弟は中殺されます。兄弟中殺です。

・父親は年支（亥水）のなかの〔甲木〕です。

父親は中殺されています。父親中殺です。

・女性の母親は日支（午火）のなかの〔己土〕です。

〔己土〕は玉堂星になります。玉堂星は母親の星です。

第一命星にでています。母親は中殺されていません。

・年支（亥）のなかの〔壬水〕は人体図に十大主星として

出ていませんが——〔壬水〕を星になおすと鳳閣星です。

鳳閣星は中殺されています。

鳳閣星には〔寿命・sex・子供・目下〕などの意味があ

ります。ここでは子供として採ります。子供中殺です。

このように星を人物として採^とることができます。

宿命（4）生年中殺・女性 をみてください。

- ・ 十大主星は日干「乙木」から、ほかの「干」^{かん}をみて星をだします。三支の二十八元の〔蔵干〕をみて星をだします。十大主星表を参考にするとよいでしょう。
- ・ 十二大従星も日干「乙木」から、（地支）の三支^{さんし}をみて星をだします。十二大従星表を参考にするとよいでしょう。

☞ 陰占は点線で囲まれた『戌亥天中殺範囲』の「干」と（支）が中殺をうけます。

つまり「干」と（支）から出てくる十大主星と十二大従星が中殺をうけることになります。

宿命にあるほかの「干」と（支）は中殺をうけません。

月支（寅）のなかの〔甲木〕は中殺をうけません。

☞ 実際に占うときは、「陰占」にでてい^{かん}る「干」を人物に置き換えることが多いです。

つまり「陽占」の十大主星の意味とは別に、陰占にでてい^{かん}る「干」を人物に置き換えることが多いのです。

その方法は「六親法」^{ろくしんほう}あるいは「十二親干法」^{じゅうにしんかんぼう}という技法をもちいます。

その技法は上のクラスで学びます。

☞ 話をもどします。

十大主星の人物ということで **宿命(4) 生年中殺・女性** をみると、子供は1人でています。

すでに言いましたが、子供は年支(亥水)の本元ほんげんにある〔壬水 子供〕です。

日干「庚金」の女性から、〔壬水〕をみると(金→水)で鳳閣星になります。鳳閣星を子供という意味で採りました。鳳閣星は戌亥天中殺の範囲内にありますから、女性は子供を中殺しています。

この女性は子供中殺の宿命ですから、子供に縁がないことになります。

ここまで中殺を受けている十大主星と人物のれんかん連関を書きました。

参考：連関〔かかわりあうこと。かかわりあってつながること〕

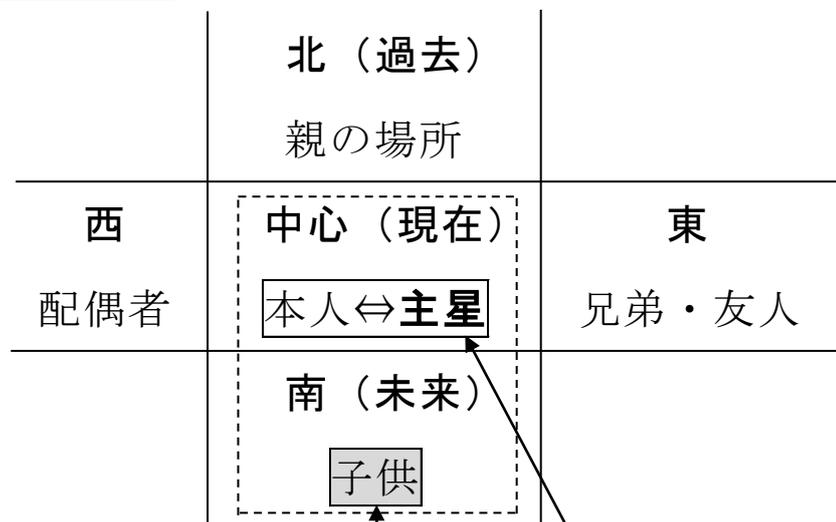
つぎに人体図の話です ➡

⇒ 陰占の「生年中殺」は人体図のどこなのかです。

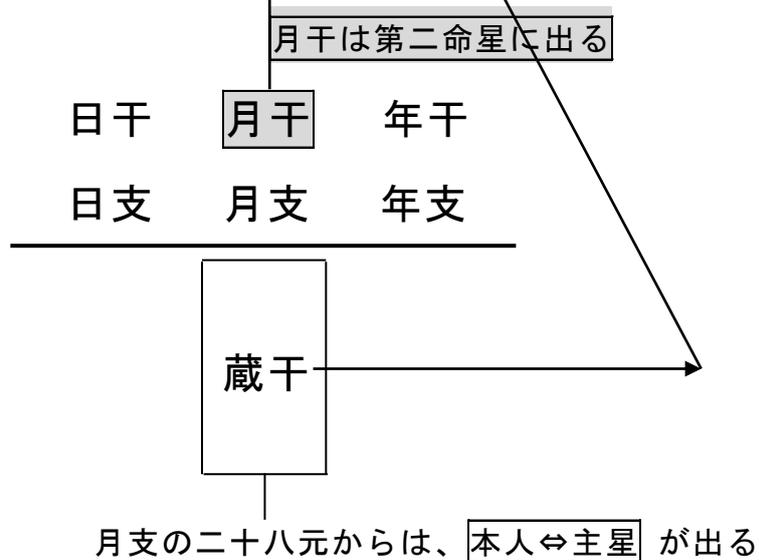
干支は陰占の世界です。十大主星と十二大従星は陽占の世界です。

参考資料 「人体図の場所と陰占」

陽占（人体図）



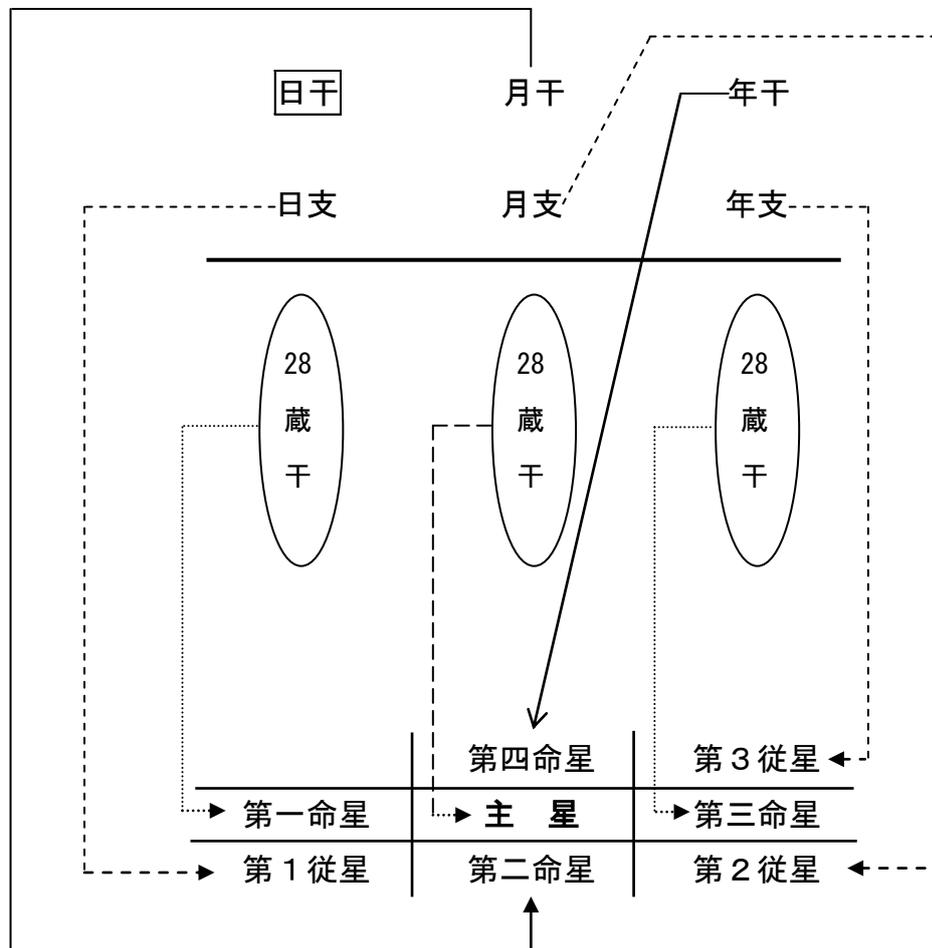
陰占



🔍 参考⇒【初年】 38回目【陰占宿命】 21 ページ

陰占「年干支」「月干支」「日干支」から〔十大主星〕の星に直したときに、人体図のどの場所に配置するのかを表した図です。

星の変換（陰占から陽占）



	年 干	年 支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日 支	月 干	月 支

『十大主星表』

- ① 日干から年干を見て 第四命星
- ② 日干から月干を見て 第二命星
- ③ 日干から年支の蔵干を見て 第三命星
- ④ 日干から月支の蔵干を見て 主星
- ⑤ 日干から日支の蔵干を見て 第一命星

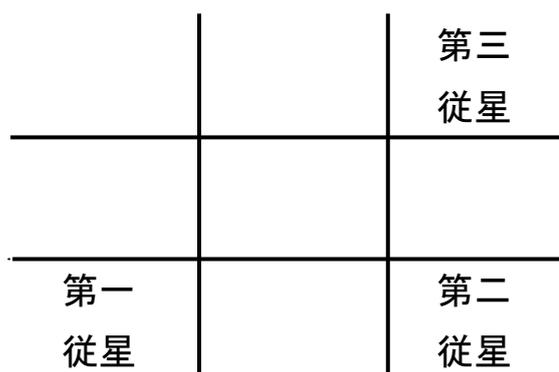
	第四 命星	
第一 命星	主 星	第三 命星
	第二 命星	

十大主星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干 星
癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	貫索星
壬	癸	庚	辛	戊	己	丙	丁	甲	乙	石門星
乙	甲	癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	鳳閣星
甲	乙	壬	癸	庚	辛	戊	己	丙	丁	調舒星
丁	丙	乙	甲	癸	壬	辛	庚	己	戊	禄存星
丙	丁	甲	乙	壬	癸	庚	辛	戊	己	司禄星
己	戊	丁	丙	乙	甲	癸	壬	辛	庚	車騎星
戊	己	丙	丁	甲	乙	壬	癸	庚	辛	牽牛星
辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	癸	壬	龍高星
庚	辛	戊	己	丙	丁	甲	乙	壬	癸	玉堂星

『十二大従星表』

- ① 日干から年支を見て 第三従星
- ② 日干から月支を見て 第二従星
- ③ 日干から日支を見て 第一従星



十二大従星表

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲	日干 星
巳	午	寅	卯	亥	子	亥	子	申	酉	天報星
辰	未	丑	辰	戌	丑	戌	丑	未	戌	天印星
卯	申	子	巳	酉	寅	酉	寅	午	亥	天貴星
寅	酉	亥	午	申	卯	申	卯	巳	子	天恍星
丑	戌	戌	未	未	辰	未	辰	辰	丑	天南星
子	亥	酉	申	午	巳	午	巳	卯	寅	天禄星
亥	子	申	酉	巳	午	巳	午	寅	卯	天将星
戌	丑	未	戌	辰	未	辰	未	丑	辰	天堂星
酉	寅	午	亥	卯	申	卯	申	子	巳	天胡星
申	卯	巳	子	寅	酉	寅	酉	亥	午	天極星
未	辰	辰	丑	丑	戌	丑	戌	戌	未	天庫星
午	巳	卯	寅	子	亥	子	亥	酉	申	天馳星

☞ 人体図には「五方向と五本能」を配置できます。

生年中殺は人体図のどこなのか見ましょう。

人体図

	第四命星（北） 習得本能 年干	初年期の場所 第3従星 年支
第一命星（西） 攻撃本能 日支の蔵干	主星（中心） 魅力本能 月支の蔵干	第三命星（東） 守備本能 年支の蔵干
第1従星 日支	第二命星（南） 伝達本能 月干	第2従星 月支

北は習得本能　南は伝達本能
西は攻撃本能　中心は魅力本能　東は守備本能
このように五方向が配置されています。

「生年中殺」ですから、どこか中殺されています。
人体図のなかで、中殺された場所からでてくる星は
どれなのかと、考えるとわかりやすいでしょう。

宿命(4) 生年中殺・女性 年干「辛金」を十大主星になお

した〔石門星〕は第四命星・習得本能にでてきます。

年支（亥水）の二十八元の蔵干〔甲木〕を十大主星に直した星は、第三命星の守備本能にでてきます。

日干「庚金」から年支の（亥水）をみると、十二大従星の天胡星は第3従星にでてきます。

つまり「生年中殺」をもっていると、人体図のなかでこれらの場所が同時に中殺現象を起こします。

🔍 **十大主星表** と **十二大従星表** を参照してください。

☞ 『十二大従星』の場所に関しては、特別な意味はありません。

初年期の場所・第3従星にのっている天胡星が中殺されます。

☞ 人体図には「五本能」を配置できます。

そこで本能の話をしてみると、第四命星の習得本能と第三命星の守備本能に中殺の不自然さが現れます。

生年中殺の人は「習得本能と守備本能」に不自然・不完全な状態が現れる。

この部分は性格です。(人物の話はすでにしました)
本能が異常になる……あるいは不自然になるという
ことは、性格そのものを意味します。

☞ 習得本能が異常になる — それはどういうこと
なのかです。

習得を知恵とすればよいです。

知恵が異常になります。

異常になりますが…… [よいとか] [悪いとか] を
問い掛けていません。

異常になるというのは [すごく頭がよすぎる] ある
いは [悪すぎる] ということです。

ふつうの状態ではないわけです。

頭がよすぎるのも、悪すぎるのも異常です。

このような考え方をします。

「生年中殺」は第四命星（知恵の場所）が不自然に
なりますから、とても頭がよいか、悪いかのどちら
かになると考えています。

ものすごく頭脳が発達するというのも異常ですし、
並はずれて頭が悪いというのも異常です。

このように大まかに〔頭がよい〕〔頭が悪い〕という分け方もできますが、その人のなかで〔すごく頭のよい状態のとき〕と〔悪い状態のとき〕がつくられるということも起ります。

〔たとえば〕**A**の分野ではすごく頭が切れるのに、**B**の分野になると〔どうして知恵が働かないのだろう〕という人もおられるでしょう。

仕事はすごくできて、頭もよいのに、友達付き合いとか、人間関係になると、頭の回転を発揮できないということもあります。

お金の使い方にしても、借金してまで〔何かにお金を^{つい}費やしてしまう〕とかも含まれます。

「なによそれっ、おかしいって誰でもわかるでしょ。なんでお金すのよっ」と言われてしまう。

ちょっと冷静に考えれば……判断できることなのにダマされた。というようなことも起こります。

また、時期によっても、頭がよい、悪いという状態もでてきます。

〔たとえば〕若い頃は頭が悪かったと思える人なのに、中年になってから、すごい才能の切れ味を発揮する人もおられます。その逆の人もいます。

子供の頃は“天才”といわれたのに、段々と衰えてしまう人もいます。そのようなことが起ります。どちらが先なのか……わかりませんが、このように、さまざまに異常な状態が起こるわけです。

その人自身も知恵がまわると思っていて、第三者もそう見ているのに、視点をチョット変えようとうまく知恵がまわらなくなる。そのようなことも起ります。

⇒ 守備本能の異常は〔守りの異常〕です。

守りがものすごくうまい、守りが極端に下手^{へた}、これはどちらも異常ということです。

それではどのようにしたらよいのか……ということになります。

これはつぎによようにも言えます。

中殺は“意図しない状態になる”わけです。

自分としては“こうなりたい”“ああなりたい”と
思い描くのは、[まったく異なる^{ようそう}様相]になるとも
いえますから、無心の状態が1番よいのです。

中殺には ⇒ ^{いと}意図しない状態・無心が1番よい。

参考：様相 [物事の状態。ありさま]

参考：意図 [なにかを目指して、そうしようと考えること]

参考：無心 [俗念や邪心にまったくとらわれない]

それゆえ、学校の成績に関しても、成績を上げよう
と思って、一生懸命に頑張ると、思うように成績が
上がらないことがあるとか……さほど努力していな
かったけれど、自分の好きな科目をやっているうち
に成績全体が上がって来たということもあります。

本人が頑張れば、成績が上がるのが普通です。

しかし、勉強しても成績が上がらないというおかし
な状態が起こりますので本人も困ります。

親もいろいろと、子供を応援するのですが、成績が
上がらないので悩みの種になります。

このような場合は「自分の好きな科目をやればよい」と考えています。

自分が好きな分野ですから、ことさら意識しないでやれることに繋つながっていきます。

その結果、ほかの科目の成績も上がってくるということが起ります。

⇒ 第三命星は守備本能です。

自分の守りを固めるために、損失を生ずるおそれがある人物、嫌いな人物を近づけないというやり方というのは、意識したやり方といえます。

そのような守りをするのは、崩くずれやすい、壊こわれやすい守りになります。

そうではなくて、無心のままに、自分に近寄る人物を好き嫌いで差別しない。というやり方をすると、自然としっかりした守りになります。

そのときは堅けんご固で強い守りになります。

〔たとえば〕“人に揚げ足をとられる”とかの状況は守りの欠如に起因していることが多いわけです。

生年中殺をもつ人は、そのようなことも多いといえますので、意図せずに無心なるとよいのです。

さて、〔無心がよい〕ということですから、頭がよいと評価されて成績がダントツでも、自分の頭のよさを誇示^{こじ}するようなやり方をするようになると、それに対しての反発も受けるようにもなるでしょう。そうなる「なに、この人ってぜんぜん違う……」頭の悪い人だと思われてしまうことにもなります。

物事に対して、何も意識しないで向き合っていると、そこから醸^{かも}し出される雰囲気とか、行動などを第三者が勝手に評価して〔頭のよい人だ〕と思われてしまう状況も起ります。

この辺り^{あた}の現象は、中殺をもつ人の特質な部分でもあると考えています。

宿命^{しゅめい}中殺をもつ人と、宿命^{しゅめい}中殺をもたない人では、世界が異なります。

“生きている世界が違う”といっても過言ではないでしょう。

世界が異質^{いしつ}ですから、宿命^{しゅめい}中殺をもたない人たちには理解^{りかい}が及ばないといえるでしょう。

「宿命中殺」をもっていない人は、天中殺の勉強を^{とお}通して…… 「生年中殺」をもつ人たちというのは、
「ああ、こういうことなのか……」
「こういう部分があるのか……」 と、理解していただければよろしいのです。

「宿命中殺」をもっている人であれば、いろいろ述^のべてきた事象を、ご自分の立ち位置から認識できるとおもいます。

参考：立ち位置〔ある状況のなかで、その人が占める位置〕

【初年】 57回目【天中殺(3)】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 58回目【天中殺(4)】 です。